

## 将来計画作成のための基礎調査

深野 明, 林 幹一郎, 岡本忠篤  
長野 東, 大道 明

## 将来計画作成のための基礎調査

深野 明, 林 幹一郎, 岡本 忠篤  
長野 東, 大道 明

### はじめに

われわれ将来計画検討委員会の5名は、昭和55年度の本校の研究紀要にある第2次5ヶ年計画の構想のうち、基本計画、現状認識とその対策を検討して次のような点についてしばって研究することになった。

1. 総合教育棟の新設要求は、今後とも本委員会で検討し実現可能な範囲で要求していく。
2. 中・高6か年一貫教育において、6か年間における生徒の発育発達、興味・関心の多様化、自我の発達の面等が著しい時期である。したがって、この時期の生徒の諸実態を今後も調査していく必要がある。
3. 生徒の諸実態を調査し、検討していく中で、中・高一貫教育の再検討と教育課程の実験にとりくむ。

今回の調査研究は、上の第2項目とし、まず生徒の実態の基礎調査を行うこととなった。

調査対象は、基礎調査なので学年をしばり、中学2年生男子118名、高校1年生男子153名、高校2年生男子149名である。調査日は昭和57年2月8日～12日である。

調査項目(1)～(17)は岡本、(18)～(28)は林、(29)～(37)は大道、(38)～(44)は深野、(45)～(49)は長野がそれぞれ分担した。

調査内容は、次に示すとおりである。

### 将来計画作成のための基礎調査

1982. 2.

筑波大学附属駒場中・高等学校将来計画委員会

この調査は、本校の現状をふまえ、かつ長期的な展望のもとに、本校を発展させる将来計画を作成するために行うものです。率直に回答してくれることを期待しています。回答は、マーク・シートのカードの同じ番号を、良い例にならってマークして下さい。但し、たての一行で、マークするのは一つだけです。間違えた場合は、消ゴムで、きれいに消し去ってから、正しくマークして下さい。無記名ですが、学年は、生徒番号らんの下の一列右の列の、学年と同じ数（高校は3をプラス）をマークして下さい。

- (1) 次の表の“生き方や性格”のらんには、正反対の生き方や性格の組み合わせ(A・B)を三つ(P・Q・R)示しています。表の右側の1から8までの下には、P・Q・Rのそれぞれについて、その人がAに近ければA、BにあてはまればBと書いた場合のすべての組み合わせが用意されて

います。あなたの、お父さんの生き方や性格に近い組み合わせの番号を一つ選んで下さい。

生 き 方 や 性 格		番 号							
A ←→ B		1	2	3	4	5	6	7	8
P	家庭中心←→仕事中心	A	A	A	A	B	B	B	B
Q	ほかの人を大切にする←→自分を大切にする	B	B	A	A	A	A	B	B
R	コツコツ努力する人←→ヒラメキ型の人	A	B	A	B	A	B	A	B

- (2) (1)の表と同じように作られた次の表の中から、あなたの、お母さんの生き方や性格に近い組み合わせの番号を一つ選んで下さい。

生 き 方 や 性 格		番 号							
A ←→ B		1	2	3	4	5	6	7	8
P	ほかの人を大切にする←→自分を大切にする	A	A	A	A	B	B	B	B
Q	外向的ではなやか←→内向的で地味	B	B	A	A	A	A	B	B
R	家にいることが多い←→外出していることが多い	A	B	A	B	A	B	A	B

- (3)～(4) 次の(3)と(4)について、あなたの考えや気持ちにもっとも近いものを、A群の1から4までの中から一つ選んで下さい。

(3) 「お母さんは、口うるさい」

A群 1. よくそう思う～同感だ。

(4) 「自分の家に生まれたのは、不運だった」

2. とくどきそう思う。

3. たまには、そう思うこともある。

4. そんなふうには思わない～全くちがう考えだ。

(5) 中学校で家庭科を勉強させることについて、あなたは、右のどの意見に一番賛成できますか、その番号を一つ選んで下さい。

1. 女子は必修、男子には不要である。

2. 女子は必修、男子は選択がよい。

(6) 高等学校ではどうでしょうか。右の1から6までのの中から一つ選んで下さい。

3. 女子は選択、男子には不要である。

4. 男女とも選択がよい。

5. 男女とも必修がよい。

6. 男女とも不要である。

(7) あなたの将来の職業として、今、一番希望するものを、A群の中から一つ選んで下さい。

A群 1. 会社員(事務系) 2. 会社員(技術系) 3. 公務員

(8) あなたが将来絶対につきたくない職業を、右のA群の中から一つ選んで下さい。

4. 研究職(大学・国・公・民間研究所)

5. 法律関係職(弁護士・判事)

6. 医師 7. 教育職(小中高)

8. 自由業 9. 自営業

(9) あなたが、自分の生涯の仕事を選ぶとき、もっとも重視したいことを、次の中から一つだけ

選んで下さい。

1. 名声 2. 社会的地位 3. 歴史的評価(将来評価されるという予想) 4. 仕事の社会的意義 5. 自分の興味・関心 6. 安定した収入 7. 高額の収入 8. 自分の適性
- (10) 次の1から8までの中に、今のあなたの生活(努力さえすれば、一流といわれる大学へ進学できそうな生活)を捨てても、(能力もあって)もし確実に手に入れることができれば、手に入りたい(やってみたい〜になりたい)ものがあつたら、一つだけ選んで下さい。

1. 有名タレント 2. 世界的な探険家 3. コンピュータプログラマー 4. 流行作家  
5. イラストレーター 7. 一流プロゴルファー 8. 一流プロボクサー

- (11)~(17) 次のA群の(11)から(17)までの各分野で、すぐれた実績〜成績をあげている人たちは、そうでない人たちにくらべ、B群のどの面ですぐれていると考えますか。A群のそれぞれについて、B群の1から5までの中から一つ選んで下さい。(同じ番号を何回選んでもよい)

- A群 (11) 音楽(ヴァイオリンの演奏家) (12) 声楽家 (13) プロ野球 (14) 高校野球  
(15) 物理学(研究者) (16) 数学(期末考査) (17) 英語(期末考査)

- B群 1. 生れつきの才能 2. 努力 3. 環境 4. 経済力(お金) 5. 運

- (18) あなたは、この1年間、どのようなことにもっとも多くの努力を注ぎできましたか。次の1から0までの中から一つ選んで下さい。

1. 学習成績の向上 2. 志望大学への進学準備 3. H. R 活動 4. 生徒会・実行委等の活動 5. クラブ活動 6. 趣味・特技の上達 7. 友人とのつきあい 8. 思索や克己  
9. 社会的不正を改善するための準備活動 0. なし

- (19)~(28) 次の(19)から(28)までについて、あなたの考えや気持ちにもっとも近いものを、A群の1から4までの中から一つ選んで下さい。

- (19) 「この学校では、孤立感をもつことがある」

- (20) 「自分が生きていく自信を失ったら、友人は力にな A群 1. よくそう思う  
ってくれる」 2. ときどきそう思う

- (21) 「H. R. の人たちは、人の批判をまともに受けとめ 3. たまには、そう思うことも  
てくれる」 ある

- (22) 「H. R. の人たちは、腹の底を見せない」 4. そんなふうには思わない

- (23) 「H. R. には規律がない」

- (24) 「H. R. には連帯感がある」

- (25) 「H. R. では、リーダーが足をひっぱられ、指導者  
ではなく、雑役夫のようにになっている」

- (26) 「H. R. では、まじめなことが冷笑されることは少  
なく、正論が通る」

- (27) 「H. R. では、鍛え合うことがない」

- (28) 「H. R. にはお互いの勉強を助け合う雰囲気がある」

(29) 次の文はあなたとあなたの家庭の居住地域との関りについて述べたものです。その関りを最もよく表している番号を一つ選んで下さい。

1. 近くに友人・知人がいないので、自分も家庭も地域とはつきあいがいい。
2. 近くに友人・知人がいないので、自分は地域とのつながりをもたないが、家庭では近所と多少のつきあいがあるようだ。
3. 家庭は地域と交渉をもっていないが、自分は近くの友人・知人を通して地域と多少のつきあいがある。
4. 自分も家庭も地域の一員として、地域とかなり親密な交渉がある。
5. 自分は地域の友人・知人と多少のつきあいはあるが、家庭の方が地域の人達とより親密なつきあいをしているようだ。
6. 家庭では地域の人達と多少のつきあいをしているが、自分の方が近くの友人・知人と親密な交際をしている。

(30)～(36) 次のA群の(30)から(36)までの七つの事がらについて自分で行う頻度はどのくらいですか。各々の場合についてB群の1から6までの選択肢の中から一つ選んで下さい。

A群

- (30) 定時起床
- (31) フトンの上げおろし
- (32) 自分の部屋の清掃
- (33) 自分の衣類の洗濯
- (34) 買物の手伝い
- (35) 家族の食事の仕度
- (36) 風呂の準備

B群

1. 毎日必ず行う
2. 1週間に2～3回行う
3. 1週間に1度位行う
4. 月に3回位行う
5. 月に1回位行う
6. 全く行わない

(37) あなたが今、家族から離れて自活することを要求された場合、あなたの現在の気持ちに最も近いものの番号を一つ選んで下さい。

1. 精神的準備がないので大変困るし、生活してゆく自信もない。
2. 精神的準備がないので困るが、なんとかやってゆく。
3. 精神面では困ることはないが、生活してゆく自信がない。
4. 精神面では困ることはないし、なんとかやってゆける。
5. 現在よりも精神面でハリがでるし、生活技術上も全く不安がない。

(38) 冷たいものを飲んだとき、歯がしみてズキンと痛かった。そのようなときに君ならどのような態度をとりますか、下の1から8までのの中から一つ選んで下さい。

1. すぐ歯医者に行って診てもらおう。
2. 冷たいものをとらないように気をつける。
3. ひまなときに歯医者にみてもらおう。
4. 我慢できる限り歯医者に行かない。
5. 歯の健康診断でひっかかったら歯医者に行く。
6. めんどくさいから行かない。
7. 処置するように勧告の通知をもらったら歯医者に行く。

8. 自然に治るので歯医者には行かない。

(39) 次の1から0までは、休憩時間や休講時間の内容です。日頃、比較的多く行っている内容を一つ選んで下さい。

1. テニポン 2. キャッチボール 3. テニス 4. 卓球 5. バレーボール  
6. バスケット 7. サッカー 8. 読書 9. 雑談 0. 室内ゲーム

(40) 朝起きて学校へ行くために準備している時間に、からだの具合がわるくなったら、あなたはどうのような態度をとりますか、次の1から6までの中から一つ選んで下さい。

1. 少しでも悪ければ、学校を休む。 2. 医者に行き、医者の判断にしたがう。  
3. 授業はでるけれど生徒（自治）会活動などは休む。 4. 親から言われれば学校を休む。  
5. 大事なテストなら無理しても学校へ行く。 6. 少くぐらい悪ければ、学校へ行く。

(41)～(44) 次の(41)から(44)までは、ある場面を設定したときの態度をきいたものです。君の気持ちにもっとも近いものを右のA群の中から一つ選んで下さい。

(41) 自分は疲れ易い。

- A群1. よくそう思う 2. ときどきそう思う 3. たまにはそう思う 4. そうは思わない

(42) 自分は朝食は必ずとる。

1. 必ずとる 2. ときどきとらない 3. たまにはとらない 4. ほとんどとらない

(43) 自分は他人と比べて運動が得意である。

1. よくそう思う 2. ときどきそう思う 3. たまにはそう思う 4. そうは思わない

(44) 自分は気分がすぐれない。

1. よくそう感じる 2. ときどきそう感じる 3. たまには感じる 4. そうは感じない

(45) 右のA群にあげた1から0までの生活や活動な A群1 本校での授業

2 本校での学校行事  
3 本校でのクラブ・同好会等の活動  
4 本校でのH. R. 学活  
5 本校以外での授業・学習  
6 本校以外でのサークル・クラブ活動等  
7 家庭における生活  
8 社会での奉仕活動  
9 読書・観劇等の個人としての文化活動  
0 上記以外の生活の中での友人等とのふれあい

どの中から、日頃あなたが、もっとも充実感を感じているものを一つだけ選んで下さい。  
(46) 右のA群の1から0までの生活や活動などの中から、あなたがかつて、もっとも大きな挫折感（ことがうまくいかないで、くじけた気持）を感じたものを一つだけ選んで下さい。

(47) 充実感を感じた場合について、その理由のうち、もっとも大きいものを次の1から0までの中から一つだけ選んで下さい。

- 1 計画や目標を自分で立てて、完成できたから
- 2 計画や目標は自分で立てないところもあったが、やっているうちに、興味がわいてきたから
- 3 自分の能力を知ることができたから
- 4 友人の協力を得ることができたから
- 5 それをやることによって、人が自分の存在を認めてくれたから
- 6 人に認められなくても、自分にとって意味のあることだと納得できたから
- 7 知ることによって、感動をおぼえたから
- 8 他の人ならばさけるような、困難に立ちむかって、やりとげられたから
- 9 やってみることによって、今まで、わからなかったことが発見できたから
- 0 人に感謝をされたから

(48) 挫折感（ことがうまくいかないで、くじけた気持）を感じた場合について、その理由のうち、もっとも大きいものを下の1から0までの中から一つだけ選んで下さい。

- 1 自分の努力が人に理解されないから
- 2 努力しても成果が上らなかったから
- 3 自分の能力の限界が見えたから
- 4 自分の環境では目的がはたせないと思ったから
- 5 自分が努力しても、人の協力が得られなかったから
- 6 他から強制されたことをやったから
- 7 やることの意味が納得できなかったから
- 8 信じている人から理解されなかったから
- 9 賞がもらえなかったから
- 0 最後まで、仕上げられなかったから

(49) 次の表の“性格”のらんには正反対の性格の組み合わせ（A・B）を三つ（P・Q・R）示しています。表の右側の1から8までの下には、P・Q・Rのそれぞれについて、自分がAに近ければA・Bに近ければBとかいたものの、すべての組合せが用意されています。

あなたの性格にもっとも近いものの番号を一つ選んで下さい。

性 格		番 号							
A ←→ B		1	2	3	4	5	6	7	8
P	自分のまわりにある不合理なことに 感じやすい←→感じない	A	A	A	A	B	B	B	B
Q	くじけそうになったとき 最後まで頑張る←→やめてしまう	B	B	A	A	A	A	B	B
R	自分のやろうとすることに対して ほとんどうまく←→失敗しそうで 行くと思う←→不安である	A	B	A	B	A	B	A	B

## 基礎調査の結果と考察

### 集計結果

(1) から (3) は、両親の生き方、人柄、能力を生徒たちがどうみているかを明らかにしようというものである。またそのような家庭に生活していることを生徒たちがどう受けとめているかをみるのが (4) である。これらの各問いで、生徒たちの家庭環境とその受けとめ方の特色を把握することを狙った。

(1) は、父親がどういう人か、あるいは、父親観を明らかにしようとしたもので、もっとも特徴的な点を挙げれば、努力型 (1・3・5・7 の選択肢を選択) の父親で、それは各学年70%以上であり、後述の生徒達の能力観とも実によく一致している。

また、生き方という点では、家庭中心が中2で50%、高2では38%と減少している。これは、年令層による変化というより、親離れとそれに対応した子離れが両学年間で顕著に進むことを示しているのではないだろうか。また、上級学年の方が、より父親の生き方についての見方が深まっている点に起因していることかも知れない。

(2) 母親がどういう生き方や性格の持主として生徒たちの眼に映っているのか明らかにしようとしたものである。その結果、平均的な母親像は、他人を大切にし、内向的で地味な母親……献身的な良妻賢母といえそうである。家にいるか、外出が多いかという点では高学年のほうが外出していることの多い母親の比率が高い。

(1) と (2) をクロスした表をみると各学年の家庭の雰囲気微妙な差があることが分る。

中2では、家庭中心で、自分を大切にし、努力型の父親と家にいることの多い内向的な母親という組み合わせが眼につく。

高2では、仕事中心で、他人を大切にし努力型の父親と、他人を大切にし、外向的で、華かで、外出気味の母親という組み合わせが典型的なのだろうか。

(3) は母親の過干渉ぶりをとらえようとしたもので、中2～高1では、反発が強く、高では、僅かではあるが、反発は減少している。

(4) 家庭の受けとめ方は、概ね肯定的であるが、時折ではあれ、「自分の家に生まれたのは、不運だった」と考える生徒が、各学年にもいることは、留意すべき点である。不運と考える理由が不明であるが、問いの流れから言えば、過干渉がその背後にある子供への期待が重荷になっていると見てよいのではなかろうか。

(5)(6) は女性観をみる問いである。本校は、中高6か年にわたる別学校で、そこに特異な女性観の歪みはないか、家庭科の復習についての考え方を手がかりにみようとしたものである。

女子のみ必修という選択肢が、女性に対する偏見とは断定しがたいが、差別的な考えを包みうると考えるが、これを選択した者は、中2で高率であり、男女間に差別をしない考え方は、高2・高1に多い。このような学年による反応のちがいが、学年進行に伴う女性観の発達なのか、それぞれの集団の個性なのか、仮に発達であるとすれば、本校のどのような教育と関わってそうなったのか、今後解明が必要である。



また、この(5)中学校と(6)高校のクロス集計の結果は、基本的には同傾向であるか、中学を必修・高校では選択増加していることが示されていて、二つの学校への期待が対照的であることが読みとれる。

(7)から(9)までは、生徒の職業観の一端を把握しようとしたものである。希望職種は、中2では、会社員が多く、高校生では減少し、代りに研究職が40%にも達する。また、職業選択の中で重視する要素が、名声や収入ではなく、“自分の興味・関心”が、とくに高学年ほど多い点が、特徴的である。この二つの特徴が生徒たちの能力の反映という面をもちながらも、現実からの逃避という側面がかなり大きいのではなかろうか。いずれにせよ、この二つの特徴が生徒層に由来するのか、本校の教育にどう関わるかも、今後分析が必要であらう。

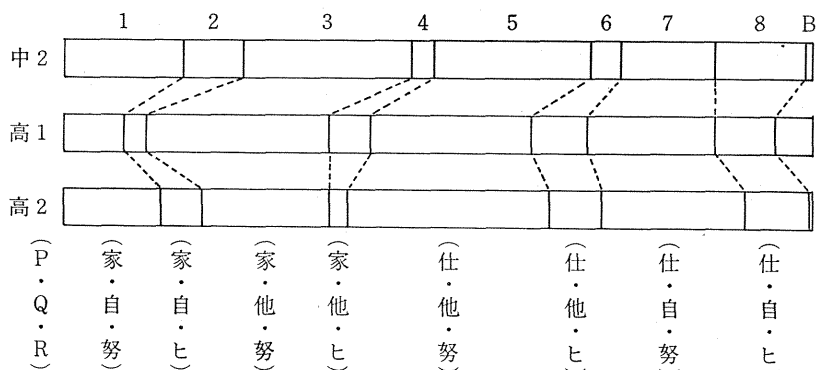
#### (10) 省略

(11)～(17)は、それぞれの分野・場面ですぐれた成績をあげている人たちが、なぜすぐれていると考えるかを問うことで、生徒達に特徴的な能力観をみようとしたものである。

音楽家は才能と環境であるが、他は各学年とも努力が圧倒的である。これは、この年代の若者たちの能力観としては、大変健全なものと言えよう。

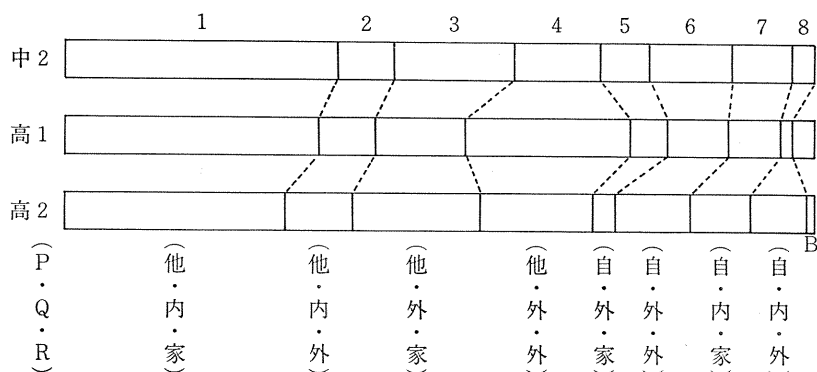
(1) 次の表の“生き方や性格”のらんには、正反対の生き方や性格の組み合わせ(A・B)を三つ示しています。表の右側の1から8までの下には、P・Q・Rのそれぞれについて、その人がAに近ければA、BにあてはまればBと書いた場合のすべての組み合わせが用意されています。あなたの、お父さんの生き方や性格に近い組み合わせの番号を一つ選んで下さい。

生 き 方 や 性 格		番 号							
A ←→ B		1	2	3	4	5	6	7	8
P	家庭中心 ←→ 仕事中心	A	A	A	A	B	B	B	B
R	ほかの人を大切にする←→自分を大切にする	B	B	A	A	A	A	B	B
R	コツコツ努力する人←→ヒラメキ型の人	A	B	A	B	A	B	A	B



(2) (1)の表と同じように作られた次の表の中から、あなたの、お母さんの生き方や性格に近い組み合わせの番号を一つ選んで下さい。

生 き 方 や 性 格		番 号							
A $\leftrightarrow$ B		1	2	3	4	5	6	7	8
P	ほかの人を大切にする $\leftrightarrow$ 自分を大切にする	A	A	A	A	B	B	B	B
Q	外向的ではなやか $\leftrightarrow$ 内向的で地味	B	B	A	A	A	A	B	B
R	家にいることが多い $\leftrightarrow$ 外出していることが多い	A	B	A	B	A	B	A	B



Cross Table №1 ~ №2

中2	№2								Σ
	1	2	3	4	5	6	7	8	
1	11		4	1	1	2	1		19
2	1	1	3	2		1	1		9
3	8	3	7	5	1	2			27
4	2			1		1	4		4
5	10	1	2	1	2	5			25
6	1	1		1	1		3	1	4
7	6	1	2	1		1	1	2	15
8	4	1	1	2	2	1			14
Σ	44	8	19	14	7	13	10	3	

高1	№2								Σ
	1	2	3	4	5	6	7	8	
1	3	2	2	3	2				12
2	2		1				1	1	5
3	16	2	2	10	1	4	3		39
4	4		1	1		1	2		9
5	11	3	5	11	1		2		33
6	3		2	3		1	2		11
7	8	2	4	5	2	3		2	26
8	4	1	2	1	1	2	1		12
Σ	52	11	19	34	7	12	11	3	

高2	№2								Σ
	1	2	3	4	5	6	7	8	
1	1	2	6	4	1	1	2	2	19
2	2	1		2			3		7
3	11		5	2	1	4	1	2	27
4		1	2						3
5	14	3	5	10	2	1	4	1	40
6	5		2	1		1		1	10
7	5	7	2	3		5	2	4	28
8	6		3	1		3			13
Σ	44	14	26	23	4	15	12	10	

(3)～(4) 次の(3)と(4)について、あなたの考えや気持ちにもっとも近いものを、A群の1から4までの中から一つ選んで下さい。

(3) 「お母さんは、口うるさい」

		中2	高2	高2
A 群	1. よくそう思う～同感だ。	24	29	24(%)
	2. ときどきそう思う。	42	35	34
	3. たまには、そう思うこともある。	26	26	27
	4. そんなふうには思わない～全くちがう考えだ。	8	8	15

(4) 「自分の家に生まれたのは、不運だった」

		中2	高1	高2
A 群	1. よくそう思う～同感だ。	7	5	3(%)
	2. ときどきそう思う。	8	6	5
	3. たまには、そう思うこともある。	28	29	30
	4. そんなふうには思わない～全くちがう考えだ。	58	58	62

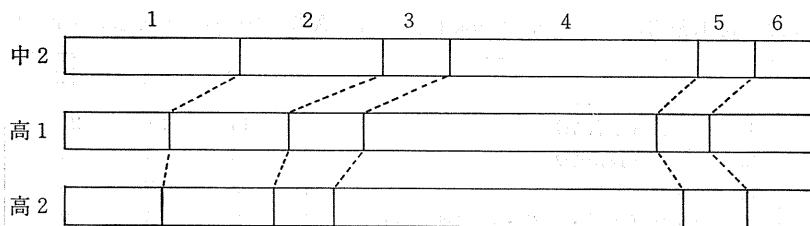
Cross Table №2～№3

№3

中2	1 2 3 4					Σ	高1	1 2 3 4					Σ	高2	1 2 3 4					Σ
	1	2	3	4				1	2	3	4				1	2	3	4		
№2	1	8	18	16	2	44	1	10	17	19	6		52	1	5	17	13	9		44
	2	2	4	2		8	2	5	3	2	1		11	2	2	4	6	2		14
	3	6	8	2	3	19	3	5	10	3	1		19	3	7	8	7	4		26
	4	4	5	3	2	14	4	9	15	8	2		34	4	4	10	5	4		23
	5	3	4			7	5	4	2	1			7	5	1		2	1		4
	6	2	6	4	1	13	6	6	1	4	1		12	6	8	3	2	2		15
	7	2	4	4		10	7	3	5	2	1		11	7	6	5	1			12
	8	1	1		1	3	8	1	1	1			3	8	3	3	4			10
	Σ	28	50	31	9		Σ	44	54	41	12			Σ	36	50	40	22		

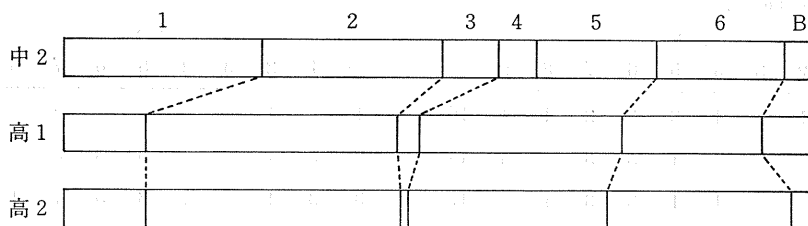
(5) 中学校で家庭科を勉強させることについて、あなたは、図のどの意見に一番賛成できますか、その番号を一つ選んで下さい。

1. 女子は必修，男子には不必要である。
2. 女子は必修，男子は選択がよい。
3. 女子は選択，男子には不必要である。
4. 男女とも選択がよい。
5. 男女とも必修がよい。
6. 男女とも不必要である。



(6) 高等学校ではどうか。図の1から6までの中から一つ選んで下さい。

1. 女子は必修，男子には不必要である。
2. 女子は必修，男子は選択がよい。
3. 女子は選択，男子には不必要である。
4. 男女とも選択がよい。
5. 男女とも必修がよい。
6. 男女とも不必要である。



Cross Table №5～№6

		№ 6																										
中 2	1	2	3	4	5	6	Σ	高 1	1	2	3	4	5	6	Σ	高 2	1	2	3	4	5	6	Σ					
№ 5	1	19	3	3	3	1	3	32	1	11	1	2	2		1	17	1	10		4	2		1	17				
	2	4	15	4	13			36	2	11	16	5	19	1	1	53	2	6	15	5	18	2	5	51				
	3	1		2	2		1	6	3			4			1	5	3		1				1	2				
	4	1		1	15		2	19	4		2	4	30	2	4	43	4		1	2	34		2	39				
	5	2	4	1	5	7	1	20	5		6	1	11	7	2	27	5		5	1	16	10	2	37				
6				1	1	3	5	6						5	5	6							3	3				
Σ	27	22	11	39	9	10		Σ	22	25	16	62	10	14		Σ	19	22	12	70	12	14						

(7) あなたの将来の職業として，今，一番希望するものを，A群の中から一つ選んで下さい。

		中2	高1	高2
A群	1. 会社員（事務系）	14	8	9(%)
	2. 会社員（技術系）	12	13	7
	3. 公務員	14	12	12
	4. 研究職（大学・国公・民間研究所）	19	27	37
	5. 法律関係職（弁護士・判事）	12	7	14
	6. 医師	8	7	5
	7. 教育職（小中高）	8	7	2
	8. 自由業	3	11	11
	9. 自営業	3	3	1

(8) あなたが将来絶対につきたくない職業を、右のA群の中から一つ選んで下さい。

		中2	高1	高2
A 群	1. 会社員（事務系）	14	21	21
	2. 会社員（技術系）	3	5	5
	3. 公務員	5	3	6
	4. 研究職（大学・国公・民間研究所）	2	5	2
	5. 法律関係職（弁護士・判事）	10	12	8
	6. 医 師	25	19	21
	7. 教育職（小中高）	14	12	12
	8. 自由業	6	3	2
	9. 自営業	12	10	18

Cross Table No. 7～8

No. 8												No. 8											
中2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	Σ		高1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	Σ	
No. 7	1	2	1		1	3	3	2	1	1	16		1		1				7	3		2	13
	2	1				1	5	3		4	14		2	2	1			6	3	5		2	10
	3	1			1	1	3	3	1	5	17		3	3	1		1	3	5	1	1	3	18
	4	3		2		3	5	2	4	1	23		4	12		1		6	10	5	1	6	55
	5	3	1	1			4	3		2	14		5	1	2		2			2	1		21
	6	2		2		3	1	1	1	1	9		6	4	1		1			2		1	8
	7	2		1		1	2				9		7	3		1	1		1		1	2	3
	8					2	1				4		8	6	1	1		3	3	1			17
	9	1	1			1	1				4		9				2	1	1				
Σ	16	3	6	2	12	30	17	7	14			Σ	32	7	4	8	19	30	19	4	16		

No. 8											
高 1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	Σ	
1		2		1	1	6	1		1	13	
2	2				4	1	1		1	10	
3	2					7	7	1	1	18	
No. 7	4	15	3	5		4	8	5	1	12	55
	5	5	2		1		3	3	1	6	21
	6	3		2						3	8
	7		1			1	1				3
	8	5		2	1	2	3	1		2	17
9						1					
Σ	32	8	9	3	12	31	18	3	27		

(9) あなたが、自分の生涯の仕事を選ぶとき、もっとも重視したいことを、次の中から一つだけ選んで下さい。

	中 2	高 1	高 2
1. 名 声	3	1	2(%)
2. 社会的地位	3	1	1
3. 歴史的評価 (将来評価されるという予想)	3	2	6
4. 仕事の社会的意義	11	20	17
5. 自分の興味・関心	24	37	44
6. 安定した収入	10	5	7
7. 高額収入	19	5	7
8. 自分の適性	28	25	16

Cross Table №7～№9

		№ 9								
中 2		1	2	3	4	5	6	7	8	Σ
№ 7	1	2			1	1	3	3	6	16
	2				2	6	2	1	2	14
	3			3	2	3	1	2	2	17
	4				4	9		2	8	23
	5	1			1	1	1	7	3	14
	6				1	4	2	1	1	9
	7			1	1	3	1	1	2	9
	8					1		1	2	4
	9					2		2		4
Σ		3	3	3	13	28	12	22	33	

		№ 9								
高 1		1	2	3	4	5	6	7	8	Σ
№ 7	1				4	2	2		5	13
	2		1		1	9	2	1	6	20
	3	2	1		4	2	3	1	5	18
	4			2	9	20	1	1	10	44
	5				3	4		2	1	10
	6				3	3		1	3	10
	7				3	4			4	11
	8			1	2	10		2	2	17
	9									
Σ		2	2	3	30	58	8	8	39	

		№ 9								
高 2		1	2	3	4	5	6	7	8	Σ
№ 7	1			1	1	6	3		2	13
	2				1	5		2	2	10
	3		1	2	6	1	3	1	4	18
	4	2		4	7	31	2	2	7	55
	5		1		5	10	1	2	2	21
	6				3	3	1		1	8
	7					2			1	3
	8	1		1	2	7		2	4	17
	9					1				
Σ		3	2	9	25	66	10	10	24	

(11) ～ (17) 次のA群の(11)から(17)までの各分野で、すぐれた実績～成績をあげている人たちは、そうでない人たちに比べ、B群のどの面ですぐれていると考えますか。A群のそれぞれについて、B群の1から5までの中から一つ選んで下さい。(同じ番号を何回選んでもよい)

A群

(11) 音楽 (ヴァイオリンの演奏家)	中 2	高 1	高 2
1. 生れつきの才能	52	47	46(%)
2. 努 力	22	14	15
3. 環 境	14	26	23
4. 経済力 (お金)	11	8	13
5. 運	2		3

(12) 声 楽 家	中 2	高 1	高 2
1. 生れつきの才能	69	61	61(%)
2. 努 力	14	22	20
3. 環 境	7	12	10
4. 経済力	5	1	5
5. 運	4	1	3

(13) プ ロ 野 球	中 2	高 1	高 2
1. 生れつきの才能	33	27	34(%)
2. 努 力	47	48	37
3. 環 境	11	12	11
4. 経済力	2	1	2
5. 運	7	8	17

(14) 高 校 野 球	中 2	高 1	高 2
1. 生れつきの才能	15	7	8(%)
2. 努 力	62	58	34
3. 環 境	8	17	23
4. 経済力	2	1	9
5. 運	13	14	26

(15) 物 理 学 (研究者)	中 2	高 1	高 2
1. 生れつきの才能	21	16	30(%)
2. 努 力	50	58	48
3. 環 境	14	12	11
4. 経済力	6	5	1
5. 運	7	5	10

(16) 数 学 (期末考査)	中 2	高 1	高 2
1. 生れつきの才能	18	10	6(%)
2. 努 力	67	76	68
3. 環 境	4	3	4
4. 経済力			3
5. 運	11	7	19

(17) 英 語 (期末考査)		中 2	高 1	高 2
1.	生れつきの才能	10	4	4(%)
2.	努 力	75	76	70
3.	環 境	7	11	7
4.	経済力	1	1	5
5.	運	7	5	14

どのようなことに努力を傾注してきたかを調べる(18)では, “成績の向上” のために努力する生徒がもっとも多いが, 上級学年になるにつれてその割合が下がる。“成績の向上”と同様に, 多くの生徒が努力を傾注しているものは“クラブ活動”である。“趣味”への努力の傾注は, 上級学年になるほど下がっていく。“思索や克己”に努力を傾注するものは, 上級学年ほど高くなり, 特に高2では, 全選択肢の中の最高になる。このことは, 青年期に当然のこととはいえるが, 改めて注目する必要がある。一見だらしくみえる生徒が, なにを思索し, なにを克己しようとしているのかを明らかにすることは, 教師と生徒の接点の一つとして妥当と思われる。(45)の“なにに充実感を感じたか”と(46)の“なにに挫折感を感じたか”とを関連させて把握する必要がある。

(18)

(%)

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
中	2	22	3	4	1	18	21	9	8	1	12
高	1	20	2	1	2	20	16	12	15	0	13
高	2	13	12	2	1	18	6	13	22	3	13

生徒たちの連帯感, 孤立感, 信頼感, 不信感, についての調査と, 本来, H・Rが鍛え合う場になるべきところなのに, H・Rでの団結力, 規律, 帰属感などがどうなっているかを調べたのが, (19)~(20)である。これらを調査した結果からは, H・Rの現状は, 教育的に望ましい水準にまで到達してないのではないか。高1では, 他学年より好ましい数値を示している。しかし, それは高1の生徒の要求水準が甘いためなのか, 今後の調査と分析を必要とすることになる。

(19)

(%)

(20)

(%)

		1	2	3	4	無 答	1	2	3	4	無 答
中	2	14	25	33	27	1	9	18	30	42	2
高	1	18	27	26	24	5	12	24	27	31	6
高	2	23	32	28	17	1	7	24	35	34	

(21)

(%)

(22)

(%)

		1	2	3	4	無 答	1	2	3	4	無 答
中	2	7	14	32	45	2	35	30	17	19	
高	1	7	27	26	35	5	22	31	27	15	5
高	2	2	16	36	46		33	31	23	13	



(23)		(%)					(24)		(%)				
		1	2	3	4	無 答			1	2	3	4	無 答
中	2	37	26	20	14	2			15	23	23	39	
高	1	22	29	31	15	3			18	34	29	16	3
2	2	35	28	18	19				9	33	30	28	

(25)		(%)					(26)		(%)				
		1	2	3	4	無 答			1	2	3	4	無 答
中	2	19	27	20	33				7	18	27	48	
高	1	12	16	23	45	4			17	23	25	33	3
高	2	25	26	15	34				9	17	32	42	

(27)		(%)					(28)		(%)				
		1	2	3	4	無 答			1	2	3	4	無 答
中	2	27	22	26	25				4	9	26	60	
高	1	22	32	25	17	5			12	31	26	27	4
高	2	32	32	20	16				7	17	28	48	

この一年間の努力した活動内容と充実感の関係では、中2はクラブ活動に最大の努力を注いだ生徒は3人のうち2人が充実感を味わっている。高1では、クラブ活動に努力を傾注した生徒のうち70%が充実感を味わっている。友人とのふれあいに最大の努力を傾けた生徒は、70%ほどが充実感を味わっている。思索・克己に努力を傾注した生徒は、読書などの個人的文化活動の場面で、5割強が充実感を味わっている。高2では、クラブ活動に努力を傾注した生徒のうち、約50%が充実感を味わっている。友人とのふれあいに努力を傾注した生徒の約50%が充実感を味わい、思索・克己に努力を傾注した生徒の約40%が読書など個人的、内面的活動で充実感を味わっている。

一方、努力した活動内容と挫折感では、中2では趣味・特技の上達を努力内容にした生徒のうち約30%強がクラブ活動で挫折感を感じている。高1では、クラブ活動で挫折感を感じた生徒は約30%である。高2のそれでは約40%強が挫折感を感じていて、自己の能力の限界を強く意識するようになったのではないだろうか。

高1で授業に挫折感をもった生徒は個人として文化活動等によって満足している。クラブで挫折感をもった生徒は個人的な友人とのふれあいによって満足をもっている。この傾向は高2にもいえる。このことは、高学年になるにつれて自我の成長があり多様化してくることも原因していると思われる。

生徒とその家庭の地域のつながりを調べた(29)では、全体に家庭の方が地域とのつながりが生徒個人より密と答えている。このことは、生活上の諸問題の処理という面から考えると当然の結果である。また、高学年になるにつれて生徒個人と地域とのつながりが薄れてくるが、その原因としては、小学校の友人との接触がだんだん薄れてくると、地域との交渉度合についての認識

が高学年になるにつれてより正確になることが考えられる。生徒個人については地域からの孤立が学年進行とともに目立ち、高2では約60%に達する。また、生徒、家庭ともに地域から孤立しているケースはどの学年をとっても約10%で、生徒の人間形成という面からその影響の分析が必要であろう。

(29)		(%)					
		1	2	3	4	5	6
中	2	13	31	3	11	35	6
高	1	12	36	5	7	30	5
高	2	12	47	7	3	27	4

生徒が将来、自立するために必要な日常生活におけるいくつかの場面における自立度を調べたのが(30)～(36)である。

定時起床については、各学年とも約55%が毎日必ず行くと回答している。低学年で約20%が一人では全く定時起床はしないと答えているが、遅刻が高学年に比較して少ないことと考え合わせると、この面でも親離れしていないことが予想できる。高校生では、選択の授業があることから中学生のように単純に推測できないが、定時起床しないことと遅刻の間にどんな関係があるのか分析が必要である。

(30)		(%)					
		1	2	3	4	5	6
中	2	56	17	6	1	2	19
高	1	53	18	6	2	1	12
高	2	55	19	8	4	1	11

フツンの上げおろしについては、約40%～50%の生徒が全く行わないと答えているが、ベッドのせいであろうか、1週間に1～3回と答えている生徒と毎日必ず上げおろしをしている生徒を合わせると約30%いるが、このデータからは、ときどき家の者が仕末しているのかどうかかわらない。

(31)		(%)					
		1	2	3	4	5	6
中	2	20	14	10	3	3	48
高	1	22	12	10	3	5	37
高	2	22	9	13	3	49	1

自分の部屋の清掃を自分でするのは月に一回位という回答が多い、上級生になり他人が自分の部屋に入るのを嫌がる傾向が強くなることを考え合わせると清掃嫌いは家庭においても現われているといえる。約20%の生徒が清掃を全くしないと答えているが、学校における清掃の仕方と関連して、家庭のしつけについての問題点となろう。

(32)

(%)

		1	2	3	4	5	6
中	2	2	5	19	19	29	6
高	1	3	7	13	20	40	15
高	2	0	4	17	15	41	22

洗濯については、予想通り約80～90%が自分で全くしないと答えている。月に1回位行うという回答が3～7%あるが、何を意味しているのだろうか。

(33)

(%)

		1	2	3	4	5	6
中	2	0	0	5	0	3	92
高	1	1	1	2	3	7	84
高	2	1	2	4	0	5	88

買物の手伝いは学年が進行するにつれてしなくなる傾向がある。中2の方が使いやすいことと、高学年になると塾や予備校の勉強やそれを口実に手伝いを逃げるのがうかがわれる。

(34)

(%)

		1	2	3	4	5	6
中	2	1	19	17	11	26	25
高	1	1	10	13	24	22	25
高	2	0	13	13	13	28	33

家族の食事の仕度については、問題の文意がやや不鮮明であったようである。出題者は食事を作る頻度を尋ねたかったのであるが、回答者は、茶碗やハシを並べることを含む手伝いと受け取ったようだ。それも下級学年ほどこのような解釈が多いように思われる。

(35)

(%)

		1	2	3	4	5	6
中	2	8	20	12	9	12	39
高	1	6	8	10	10	16	46
高	2	2	8	7	7	14	62

風呂の準備については、どの学年とも傾向は似ているが、しいて云えば、この場合も中2の方がより協力的といえる。

(36)

(%)

		1	2	3	4	5	6
中	2	7	26	17	9	9	31
高	1	5	20	18	10	16	26
高	2	5	17	18	15	13	32

自立する志とその場合の生活上の自信について尋ねたのが(37)である。下級学年の方が自立するうえで不安感が強い。生活のうえでなんとかやっていると答えている生徒が各学年に約60～70%いる。

		(37) (%)				
		1	2	3	4	5
中	2	12	30	17	25	15
高	1	8	26	20	34	7
高	2	10	21	18	36	14

自立する精神的な準備とその際の生活に対する自信が日常生活の各場面における自立に裏付けられているかどうかの関連を調べた結果では、どの学年をとっても自立した際の生活に対する自信は日常生活各場面での手伝いの頻度や自分のことは自分でやる頻度と結びついていないことがわかった。全体的に見て、自分のことは自分でやり、家事の手伝いもよくする生徒は内省的、内向的きまじめさゆえに自立後の生活に不安をもち、ルーズな生徒は、生活体験の中で自立をするための訓練の少ないゆえに自立後の生活に不安をもつのではないだろうか。

自分の健康状態とそのときの態度、余暇の使い方などを問うたのが(38)～(44)である。

(38)では、むし歯は自然に治ることがないので、早期に治療することが態度として望ましいのであるが、自然に治るので歯の治療を受けないという選択肢が約9～11%もあるのに問題を残す。

		(38) (%)							
		1	2	3	4	5	6	7	8
中	2	5	8	22	9	9	17	11	18
高	1	6	7	32	9	10	15	8	8
高	2	6	3	26	9	12	22	12	11

休憩時間や休講時に比較的多く行っている内容を問うた(39)では、雑談が多かった。読書や身体運動を期待したが少なかった。特に高一は雑談が57%となっている。中2と高2はやや健康的な活用をしている。休憩時間と休講と分けてみた方がよかったのではないだろうか。

		(39) (%)									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
中	2	14	1	8	9	0	7	17	5	26	12
高	1	0	1	4	2	1	2	3	16	57	8
高	2	0	5	3	1	17	2	9	15	46	1

朝の健康状態が、その日の調子をきめるともいわれている。調子の悪い状態を設定してそのときの反応をみたのが(40)である。少しぐらい悪ければ登校すると答えた生徒が約半数をこえている。これは当然ともいえるので質問文を再検討する必要もあろう。

(40)		(%)					
		1	2	3	4	5	6
中	2	8	4	8	9	3	67
高	1	7	3	6	5	13	63
高	2	14	5	4	5	17	54

健康上重要な朝食、活動、気力などを問うたのが(41)～(44)である。疲れ易く、高学年になると朝食を摂るのが少なくなり、運動はあまり得意でなく、気分がすぐれないときがたまにあるのが生徒に多いようである。

(41)		(%)				(42)		(%)	
		1	2	3	4	1	2	3	4
中	2	24	22	31	22	86	4	7	3
高	1	26	24	27	20	69	18	5	5
高	2	28	26	23	23	72	13	9	6

(43)		(%)				(44)		(%)	
		1	2	3	4	1	2	3	4
中	2	13	22	18	47	8	30	35	27
高	1	9	27	22	38	11	30	42	14
高	2	15	20	23	42	20	23	43	13

健康状態で、自分は疲れ易く、気分がすぐれないという生徒をみると、中2では6％、高1では7％、高2では13％で高学年に多くなる傾向を示している。また、朝にからだの具合が少しでも悪ければ学校を休む生徒で自分は疲れ易いと答えた生徒は、中2が6.7％、高1が1.9％、高2が6.7％ある。健康状態に自信のない生徒が中2、高2に比較的少ないがいることは注目しなければならぬであろう。

充実感や挫折感をどのようなときに味わうかをみたのが(45)～(48)である。

充実感を感じるものを問うた(45)では、授業についての充実感は少なく、クラブ行事の方に充実感をもつようである。高学年になると自我の成長からか個人としての文化活動に充実感をもつようになる。

(45)		(%)									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
中	2	7	19	35	1	3	1	8	1	13	12
高	1	6	15	18	1	5	3	7	1	17	20
高	2	3	17	12	1	10	1	8	0	28	18

挫折感を感じるものを問うた(46)では、授業についての挫折感は20％近くある。しかし、クラブ・同好会における方がやや多いと思われる。高2にはblankが16％いる。このことは、再調査の必要があるかも知れない。他の内容については、特に年齢による差はみられない。

		(46) (%)									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
中	2	16	8	22	8	12	4	6	13	4	5
高	1	22	10	19	3	8	5	4	5	1	7
高	2	16	9	19	11	11	5	5	1	0	15

充実感を感じる理由について問うた(47)では、自分で計画や目標を立てて、完成できたから～自分にとって納得できたからに回答の多くが集っている。これは、充実感と主体性の関係が大きいことを感じる。知ることによって、感動をおぼえたから充実感を感じたというのが高学年に多い。これは情報量の増加と自我の成長を示しているであろう。

		(47) (%)									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
中	2	21	17	7	5	2	22	8	5	11	3
高	1	17	7	7	7	1	17	13	7	8	1
高	2	15	9	5	5	5	23	20	3	11	0

挫折感を感じた場合の理由を問うた(48)では、中2は努力しても成果が上らなかったからが多い。高学年になるにつれてそれが少なくなり、自分の能力の限界が見えたからが多くなる。

		(48) (%)									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
中	2	8	27	9	10	6	6	15	5	5	7
高	1	7	18	12	6	6	7	14	6	1	8
高	2	5	17	26	9	11	1	11	6	2	7

充実感や挫折感には知能との関係も考えられるが根底になる性格の影響も考えられるので、その点について問うた(49)では、自分のまわりの不合理なことに感じやすい生徒がほとんどである。高学年になるにつれて成功感に不安をもつようになってきている。

		1	2	3	4	5	6	7	8
中	2	12	11	30	25	10	6	2	3
高	1	7	18	21	28	8	5	2	1
高	2	9	13	27	34	4	4	5	3

## ま と め

今回は、3学年を対象とした生徒の実態を多方面から調べて、今後の全校生徒の実態を知るための基礎調査であった。

家庭環境は比較的良好であり、このような環境で育った生徒は、家庭での仕事にはあまり分担せず、自分が使用するものも親に仕末をしてもらい、学校へは、朝食を大部分の生徒が摂り、少しぐらい身体の調子がわるくても登校する。学校での生活は、感動する授業では充実感をおぼえるが、その大部分はクラブ活動の方が充実感をおぼえる。高学年にいくほど自分の能力の限界がみえてきて挫折感をおぼえ、自分のまわりにある不合理には感じやすく、最後まで頑張ろうとするが失敗しそうで不安である。それでも将来は自分の興味・関心があり適性のある職業につきたいと願っている。異性に関しては、中学校のころは差別感を持っているようであるが高学年には理解できてくるようである。